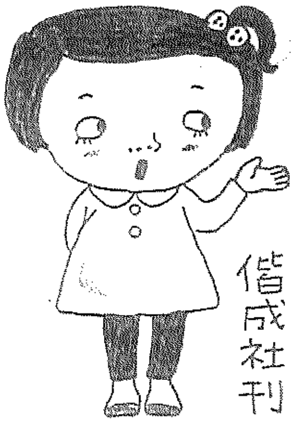
Free Paper! フリーペーパー

ひみつのかんかん
レトロガイド2

© Kazumi Hanayama



好評発売中!!

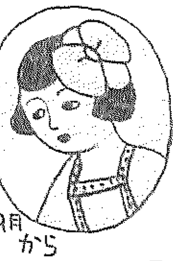
偕成社刊

ひみつのかんかん
花山かずみ

さく 花山かずみ

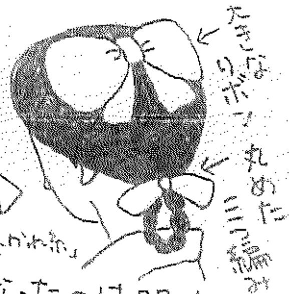
『ひみつのかんかん』のレトロガイド第2弾です。(注 花山かずみが勝手に発行中…) 絵本に登場する大正生れのはるちゃんの子どものころの（↗1920～1930年）様子。今ではめずらしくなったり、びっくりする事もたくさんあります。ちょっと紹介してみましょう!(注 絵本に載ってないこともあり)

リボン


『幼女の友』大正13年9月から

明治の女学生の代表的なヘアスタイル「マガレイト」⇨

└→語源は「巻かれ毛」

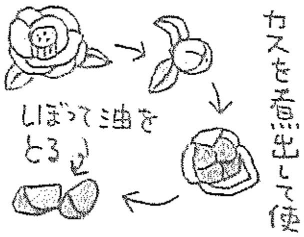

大きなリボン
丸めた三つ編み

日本でヘアアクセサリーとして着けるようになったのは明治以降です。女学生の間で大きなリボンを着けるのがブームになり次第に小さな女の子たちにも広まっていきました。下級生は上級生より大きなリボンを着けない等、色々なルールが…

「東のレート・西のクラブ」昭和の初めまでの日本の2大化粧品メーカー。宣伝合戦も盛んでした。
- クリーニンローション(洗顔料)…2円
- バタミルクローション(乳液)…1円90銭
- まつも育毛剤…1円60銭
- 女神の肌(美容液)…1円60銭

(昭和4年当時)

洗髪(シャンプー)

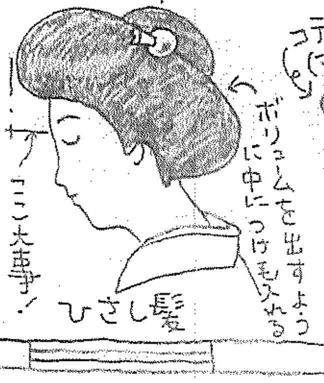

しぼって油をとる
カスを煮出して使う

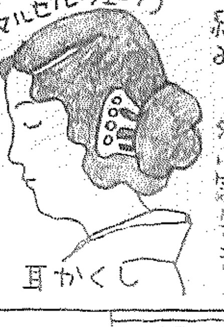
洗髪は月に2回程度…
束髪の形を美しくキープする為もあったらしい…

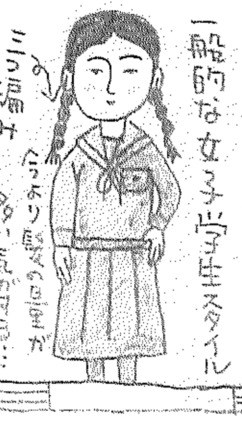
♡洗髪料(シャンプー)ランキング
1位 フノリ (小麦粉+水を煮溶したもの)
2位 椿の実のしぼりカス
3位 卵白 (昭和4年当時)

束髪

この頃になると日本髪から束髪にヘアスタイルも変化していきました。「ダリア巻き」「ひなげし」「うずまき」等名付けられたスタイルが次々に登場。「耳かくし」は大正後期の代表的なスタイルです。大きさはだんだんコンパクトになりました。これは働く女性が増えたことも関係があるようです。

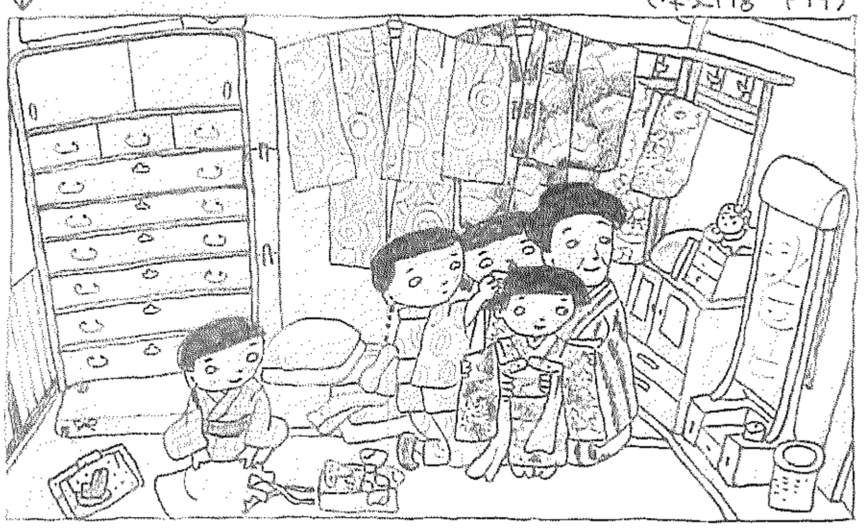

ここ大事!
ボリュームを出すように中につけ毛も入れる
ひさし髪


コテでウェーブ(マルセルウェーブ)
耳かくし


三つ編み
今より髪の量が多い気がする…
一般的な女子学生スタイル

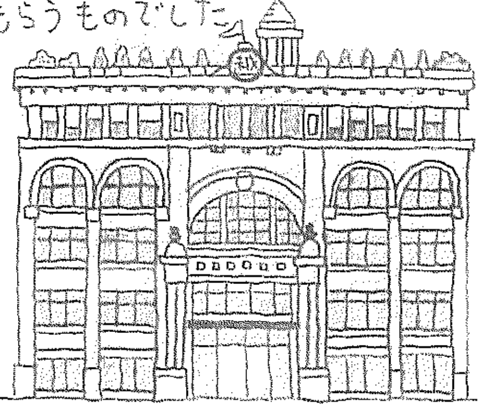
よそゆきのきものを着たはるちゃんがドキドキしながらかがみを見るページ

(本文P18－P19)

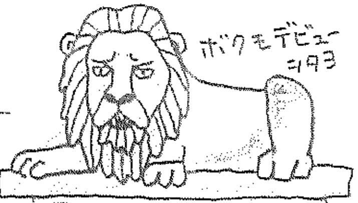


よそゆきに着がえたはるちゃんたちはこの後写真館で家族写真をとってもらいます。当時、カメラはまだ高級品で庶民には手が届きませんでしたから写真は写真館でとってもらうものでした。

デパートメントストア



はるちゃんが子どものころはよそゆきのきものでオシャレをしてデパートでショッピングをするのはあこがれでした!


ボクもデビューシタヨ

1904年の「デパートメントストア宣言」をした三越呉服店がデパート第一号。その後岡山天満屋・福岡岩田屋・札幌今井等各地にできました。制服姿のデパート店員はとても人気のある職業でした。

↖1914年開店のルネサンス様式の三越日本橋店には屋上庭園があり日本初のエスカレータ、エレベータがあった。

1921年までははきものを脱いで入場していたそうです!

活動映画

子どもも大人も映画は大好きで各地に映画館ができ大人気でした。映画館のない地方では学校や集会場で短編の喜劇映画上映会(ニコニコ大会)が開かれ子どもたちは心待ちにしていました。

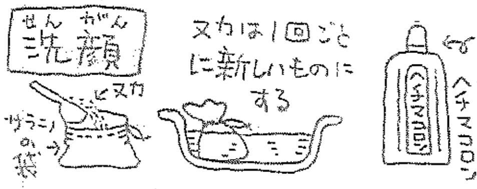
チャップリンやハロルド・ロイド 尾上松之助等が人気者でした。

銀ブラ々々 ファッションチェック

銀座を歩く人々の服装を調べたところ洋服1に対して和服99という結果に!

1925年(大正14年)当時

洗顔

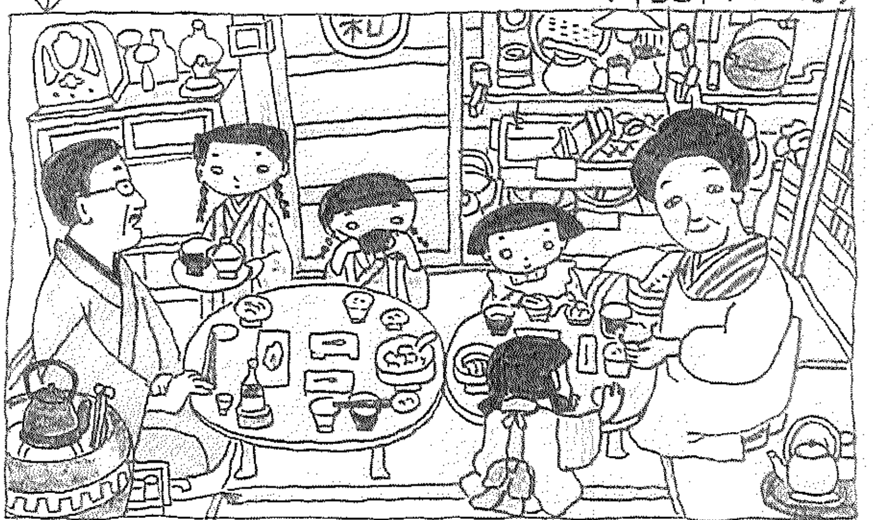

ヌカ
サラシの袋
ヌカは1回ごとに新しいものにする
ヘチマコロン
洗顔のあとはヘチマコロン

生活用水は井戸水が主でした。井戸水は硬水で石けんは泡だたないので洗顔料には米ヌカ・洗粉(小豆・緑豆等を粉にしたもの)がよく使われていました。(高級品であった)石けんを使うときは井戸水をくみ置きしたりほう酸を入れたりして軟水にしてから使用しました。

化粧水はヘチマ水、きゅうり水、レモン水等自然派のものが好まれました。手作り派も!

はるちゃんちの夕ごはんのページ

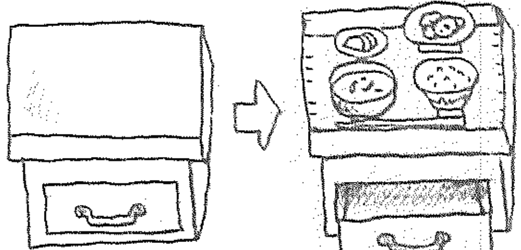
（本文P14－15）



食事は明治時代までは各自が箱膳（はこぜん）を持っていてだまって素早く食べるものでした。大正時代の中頃になってちゃぶ台が登場し家族みんないっしょに食べる家庭が多くなったそうです。

（お父さんだけは特別でおかずが多かったり上等だったりでした）

箱膳（はこぜん）（銘々膳（めいめいぜん））



ただのハコです！

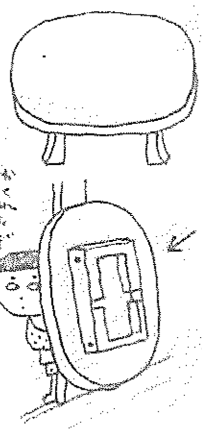
ハコのフタをひっくり返し引き出しの中の食器を取り出し使います。

食事が終わると引き出しにしまいます。

ここびっくり！→ めったに洗いません！

ちゃぶ台

文明開花により西洋のテーブルを真似した座って使えるちゃぶ台が登場。都市部から広まっていきました。



必要がないときは足をたたんで収納します。四角のものもありました。

農村部では昭和になっても箱膳の家庭が多かったみたい…

一上座（かみざ）一

部屋の中で入口から一番遠い場所、床の間（あれば）の前。

一番偉い人が座わるところ。家族の中ではおとうさん、おじいちゃん等家を継ぐ人。

注・日本のみの考え方

一日のこんだて（都市部下町）

・夏のある一日

朝…みそ汁（ワカメ、茗荷）、漬物（きゅうり（なす）のぬか漬）

梅干、ラッキョウ

昼…塩鮭、なすの辛煮（唐辛子と出汁で煮る）、鉄火みそ（大豆ゴボウ）、漬物（新生姜）

鉄火みそ → 根菜を細く切る

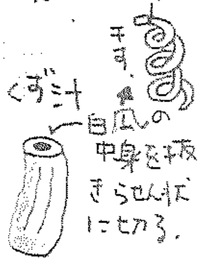
パラパラになるまで炒める ← さとう みそ 入れ ←

おやつ…白玉さとうがけ

夜…がんもどき・じゃが芋の煮物・冬瓜（とうがん）のくず汁

漬物（なすの塩水漬）

酒のさかな（おつまみ）…たたみ鰯・白瓜の雷干し（かみなりぼし）



干す。

白瓜の中身を抜きらせん状に切る。

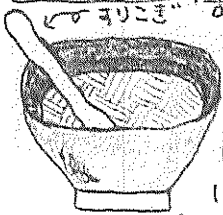
『婦人倶楽部』の付録 1933年

－誰にも簡単にできる家庭西洋料理－

- ♡ムオーフル・ランターン
- ♡サバのロバートソース
- ♡牛肉の巴里風煮込み。
- ♡エッグス・モーレメント・テール…

ど、どんな料理では？

すり鉢（ばち）

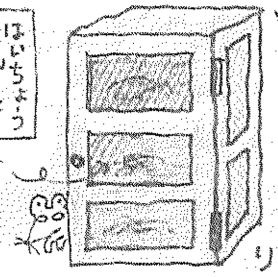


内側にギザギザがあり「すりつぶす」「おろす」「米研ぎ」「製粉」等なんでも使える万能選手。すべての家庭にありました。6世紀には既に使われていたそう！

すり鉢を使って作るこんだて例 ♡♡

- ◦とろろ汁
- ◦すり身
- ◦胡麻みそ
- ◦つみれ
- ◦きんとん
- ◦木の芽の合え物
- ◦そば粉

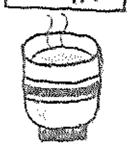
蠅帳（はいちょう）



当時は今よりハエやネズミがたくさんいました。それらから食物を守り腐らせないに風通しのよいところに置く為のもので江戸時代からどこの家にもありました。天井からつるすタイプも。

この頃の冷蔵庫は木の箱の上部に氷を置くタイプの物でした。でも高価でまだ広まってはいませんでした…

お茶（ちゃ）



江戸の頃はまだぜいたく品でしたが、明治以降にお茶葉が重要な輸出品になり生産技術が工夫されたので生産量が多くなり一般の人々にも広まりました。

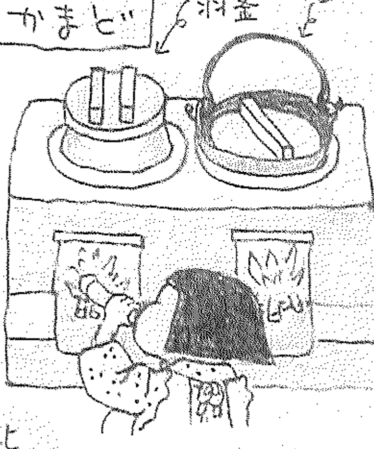
物売りの声

「ナットナットーナッ」
納豆屋
「プープー
トーフィ 生揚げ
がんもどき」
豆腐屋
大きな鈴を
「チリンチリン」
おでん屋
「デンデコ デンデコ トントン
アメ〜の中から金
太さ〜んが飛び
出たよっ」
アメ屋

洗剤（せんざい）

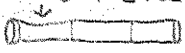
この頃はまだ洗剤は普及していなかったので「うどんのゆで汁」「米のとぎ汁」「灰（はい）」「糠（ぬか）」「みがき砂」等を使っていました。今のように油を使うこんだてはなかったのでこれで充分きれいになりました。「みがき砂」は炭酸カルシウムが主の地層を乾燥させ細くしたもの。後の「クレンザー」

かまど



かまどは今から約1500年前に朝鮮半島から伝わりました。

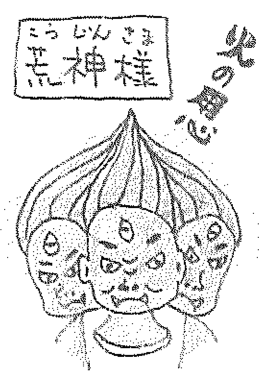
木切れを入れ火吹き竹を使って火をおこします。



ご飯はお米を井戸水で研ぎ羽釜に入れて…

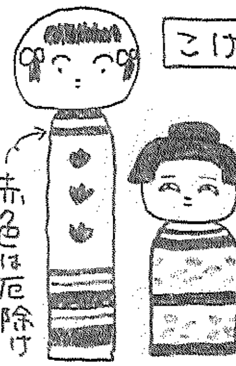
「はじめチョロチョロなかパッパッ赤子（赤ちゃん）泣いてもフタ取るな」の火加減で炊きあげます。

荒神様（こうじんさま）



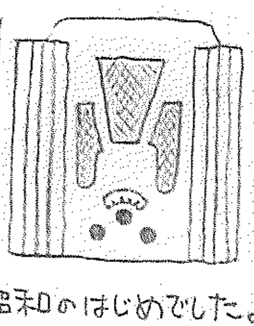
火は神聖なもので「かまど」は家の象徴でした。そばには必ず家内安全、かまどの守り神「荒神さま」のお札をおまつりします。

こけし



今から180年位前に東北地方の木地師（きじし）（木製のおわんお盆等の食器を作る職人）が子供の遊ぶおもちゃとして作り売りだしたのがはじまりといわれています。「きぼこ」「でく」「こげす」等色々な呼び方が「こけし」になったのは昭和のはじめでした。

ラジオ



日本初のラジオ放送は1925年（大正14年）に始まりました。テレビが普及する1960年までの間ラジオは家庭の情報、娯楽の中心でした。

- ・1927年 中学生野球のラジオ放送開始（現高校野球）
- ・1928年 ラジオ体操の放送開始